

# 畑作の部

畑作部（長沼町）

## I 気象概況

平成10月から平成11年11月中旬までの概況は次のとおりである。

平成10年

9月：平均気温は1か月を通して高く経過した。降水量は上旬は少なかったが中旬は多く、下旬は平年並だった。日照時間は上、下旬が平年並、中旬はやや多かった。

10月：平均気温は上旬は平年並だったが、中・下旬は高く経過した。降水量は上・下旬が少なく、中旬はやや多かった。日照時間は中旬が平年並、上、下旬はやや多かった。

11月：平均気温は上旬が高めだったが中・下旬は低く、特に下旬は平年より5℃以上も低かった。降水量は上旬は多かったが、中、下旬は平年並であった。日照時間は上、中旬が平年並、下旬はやや多かった。初霜は11月2日で平年より10日遅かったが、根雪始は11月17日で平年より23日早かった。

12月：平均気温は上旬が平年より5℃以上低かったが、中旬は4℃高かった。下旬は平年並であった。降水量は上旬に多かったが中・下旬は平年並であった。日照時間は平年並であった。

平成11年

1月：平均気温は上旬が低く、中・下旬は高かった。降水量は上、下旬に多かった。日照時間は上・中旬が平年並、下旬が多かった。

2月：平均気温は上旬がやや低く中旬は平年並、下旬はやや高かった。降水量は上、下旬が多く中旬は少なかった。日照時間は上、下旬が平年並、中旬は多かった。

3月：平均気温は上・中旬がやや高めであったが、下旬は低く経過した。降水量は上、下旬が多く中旬は少なかった。日照時間は上旬は平年並であったが中旬は少なく、下旬もやや少なかった。

4月：平均気温は上旬は低かったが、中・下旬は高かった。降水量は1か月を通じて少な目で、特に下旬が少なかった。日照時間は上・中旬が少なかったが、下旬は多かった。根雪終は4月13日で平年より11日遅く、積雪期間は147日で平年より34日多かった。耕鋤始は4月23日で平年より3日遅かった。

5月：平均気温は上、下旬がやや高く、中旬は低かった。降水量は上、下旬が多く、中旬は少なかった。日照時間は上旬が少なく、中・下旬が平年並であった。

6月：平均気温は上・中旬が高く、下旬もやや高かった。降水量は中旬が少なかった。日照時間は上・中旬が多く、下旬は平年並であった。

7月：平均気温は上旬が低く、中・下旬は高かった。降水量は上旬が平年並、中・下旬は多かった。日照時間は上、下旬が平年並、中旬が少なかった。

8月：平均気温は1か月を通じて高く、特に上・中旬は記録的な猛暑であった。降水量は上旬が極めて多く、7月下旬から連続7日間の降雨を記録した。中・下旬の降水量は少なかった。日照時間は上・中旬が多く、下旬は平年並であった。

9月：平均気温は1か月を通じて高かった。降水量は上・中旬が少なく、下旬もやや少なかった。日照時間は上旬がやや多く、中旬が多く、下旬がやや少なく経過した。

10月：平均気温は上旬が平年並、中旬が低く、下旬が高かった。降水量は上旬がやや少なく、中・下旬が少なかった。日照時間は上、下旬が平年並、中旬がやや少なかった。15日に初霜、17日に降雪始を観測した。初霜は平年より10日、降雪始は平年より21日早かった。

11月：平均気温は上・中旬とも平年並であった。降水量は上旬が少なく、中旬が平年並であった。日照時間は上・中旬とも平年並であった。

以上、農耕期間（4月～10月）の気象を要約すると、気温は、積算平均気温が3,276℃で平年より192℃高かった。降水量は688mmで平年より35mm多かった。日照時間は1,008時間で平年より16時間多かった。

## 季節表

年次	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪 期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩 霜 (年.月.日)	初 霜 (年.月.日)	無霜 期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H10.11.17	H11. 4.13	147	H11 4. 7	H11 4.23	H11. 4.29	H11.10.15	169	H11.10.17
平年	12.10	4. 2	113	4.14	4.20	4.30	10.25	177	11. 7
比較	△ 23	11	34	△ 7	3	△ 1	△ 10	8	△ 21

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

## 農耕期間の積算値

項目		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4 ~ 10月	本年	3,276	4,242	2,366	688	1,008
	平年	3,084	4,119	2,072	653	992
	比較	192	123	294	35	16
5 ~ 9月	本年	2,778	3,458	2,180	615	730
	平年	2,582	3,300	1,886	494	691
	比較	196	158	294	121	39

注) 平年値は過去10年間の平均。"- "は減を示す。

## II. 作 況

### 1. 秋播小麦 作況：やや不良

事由：播種は平年並の9月11日に行い、越冬前の生育はほぼ平年並であった。根雪始は11月17日、供試圃場の根雪終は4月9日（融雪剤散布：平年3月31日）で、積雪期間は143日（同：平年111日）であった。雪腐病は褐色小粒菌核病、褐色雪腐病が混発し、積雪期間が長かったこともあって、発病程度が平年よりやや高かった。融雪後、4月下旬を除き、気温が低めに経過し、生育が遅れ、出穂期は平年より1～2日程度遅かった。しかし、その後は7月上旬を除いて高温傾向に経過したため、成熟期は平年より1～2日程度早まった。穂長は平年並であったが、穂数は平年より1割前後少なかった。概して穂数が少なかったことが影響し、子実重は平年並ないし平年をやや下回った。これは、多雪による融雪の遅れと出穂前の低温傾向で草勢が劣ったうえ登熟期間が短かったことに起因していると思われる。一方、出穂以降比較的好天であったこともあって、リットル重、千粒重は平年並ないし平年よりやや重く、粒は比較的充実していた。品質は「タクネコムギ」「ホクシン」では平年並の1等であったが、「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」では平年より劣る2等であった。

以上により、本年の作況はやや不良である。

項 目	品 種 名 年 次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ			ホクシン		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H10.月.日)	9.11	9.11	0	9.11	9.11	0	9.11	9.11	0	9.11	9.11	0
出芽期	(H10.月.日)	9.20	9.20	0	9.20	9.20	0	9.20	9.20	0	9.20	9.20	0
出穂期	(H11.月.日)	6.11	6.10	1	6.3	6.1	2	6.12	6.10	2	6.8	6.6	2
成熟期	(H11.月.日)	7.22	7.24	△2	7.17	7.18	△1	7.22	7.23	△1	7.18	7.20	△2
雪腐病	(0:無～5:甚)	1.9	0.9	1.0	1.8	0.9	0.9	2.8	1.6	1.2	2.0	0.9	1.1
草 丈 (cm)	H10.10月20日	20.3	21.7	△1.4	21.0	22.2	△1.2	22.3	22.1	0.2	22.0	24.8	△2.8
	H11.5月20日	31.8	48.9	△17.1	34.0	50.1	△16.1	28.1	46.1	△18.0	31.4	48.1	△16.7
	H11.6月20日	87	103	△16	98	106	△8	75	96	△21	83	98	△15
茎 数 (本/㎡)	H10.10月20日	1060	885	175	1195	1018	177	1235	927	308	1261	1050	211
	H11.5月20日	1018	1202	△184	1052	1275	△223	917	1215	△298	1044	1268	△224
	H11.6月20日	511	675	△164	614	844	△230	536	724	△188	548	769	△221
成熟期 に おける	稈長 (cm)	80	98	△18	91	100	△9	69	90	△21	74	92	△18
	穂長 (cm)	8.6	8.5	0.1	7.6	7.8	△0.2	7.0	7.2	△0.2	8.6	8.2	0.4
	穂数 (本/㎡)	513	538	△25	617	693	△76	529	580	△51	541	620	△79
子実重	(kg/10a)	464	495	△31	440	435	5	431	467	△36	494	506	△12
リットル重	(g)	773	766	7	790	787	3	755	736	19	787	782	5
千粒重	(g)	44.9	42.9	2.0	41.0	37.5	3.5	39.8	37.4	2.4	39.2	37.8	1.4
品 質	(等級)	2中	1	—	1	1	—	2中	1	—	1	1	—
子実重平年対比	(%)	94	100	△6	101	100	1	92	100	△8	98	100	△2

注) 平年値は前7か年中、平成4年、5年（各収穫年度）を除く5か年平均。

## 2. 春播小麦 作況：不良

事由：播種は平年より2日遅い4月27日に行った。播種後、短時間に多量の降雨があったため土壌表面がクラスト化し、また低温に経過したため出芽が遅れ、平年より4～5日遅い5月12～13日に出芽期に達した。出芽後高温傾向に推移したため、栄養生長期が1週間程度短縮され、出穂期は平年より3～4日早かった。このため生育は小出来で、稈長および穂長が平年より短く、またクラスト化によって出芽数が少なかったこともあり穂数は平年並からやや少なかった。その後も7月上旬を除き高温傾向で推移したため、登熟期間もやや短縮し、成熟期は平年より5日早かった。7月28日～8月2日の連続降雨により、「ハルユタカ」に穂発芽が発生した。収量は、栄養生長期の短縮による生育量の不足と結実期間の短縮による充実不良により、平年対比60～69%の著しい低収であった。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		ハルユタカ			春のあけぼの		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
項 目	年 次						
播 種 期	(月.日)	4.27	4.25	2	4.27	4.25	2
出 芽 期	(月.日)	5.12	5.8	4	5.13	5.8	5
出 穂 期	(月.日)	6.24	6.27	△ 3	6.23	6.27	△ 4
成 熟 期	(月.日)	7.31	8.5	△ 5	8.4	8.9	△ 5
6月20日	草丈 (cm)	53	59	△ 6	56	65	△ 9
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	537	733	△196	492	691	△199
成 熟 期 に お け る	稈長 (cm)	76	82	△ 6	79	83	△ 4
	穂長 (cm)	8.0	8.8	△0.8	8.3	8.6	△0.3
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	455	445	10	356	441	△ 85
子 実 重	(kg/10a)	184	266	△ 82	180	301	△121
リットル重	(g)	738	747	△ 9	770	779	△ 9
千 粒 重	(g)	35.2	36.1	△0.9	38.1	38.5	△0.4
品 質	(等級)	等外	等外	—	1	2中	—
子実重平年対比	(%)	69	100	△ 31	60	100	△ 40

注) 平年値は前7か年中、平成5年、8年を除く5か年平均。

### 3. 大豆 作況：やや良

事由：播種期は平年より5日早かった。播種後降水があり、5月下旬は気温がほぼ平年並に経過したため、出芽期は各品種とも平年より4～7日早かった。その後6月上旬～7月下旬まで7月上旬を除いて気温が平年より高く経過し、7月中、下旬は降水量が多かったため生育は促進され、開花期は平年より3～8日早かった。開花期以降9月下旬まで高温・多照に経過したため各品種の登熟が早く進み、成熟期が平年より6～10日早かった。「ユウヒメ」、「ユウヅル」は倒伏が多かった。各品種とも主茎長は平年より高く、主茎節数は平年並、分枝数は「ユウヒメ」、「ユウヅル」は平年並、「ツルムスメ」はやや多かった。着莢数は平年より多く、一莢内粒数は「ユウヒメ」、「ユウヅル」は平年よりやや多く、「ツルムスメ」は平年より少なかった。百粒重は「ユウヒメ」、「ユウヅル」は平年よりやや重く、「ツルムスメ」ほぼ平年並であった。子実重は「ユウヒメ」、「ユウヅル」は平年を16～29%上回るが、「ツルムスメ」は平年並であった。「ユウヒメ」、「ユウヅル」に裂皮が多発し、品質（検査等級）はやや劣った。

10月発表の作況では裂皮により品質が検査等級に入らないことが予想されたため平年並としたが、検査の結果各品種3等に入ったので、今年の作況はやや良である。

品 種 名		ユウヒメ			ユウヅル			ツルムスメ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.17	5.22	△ 5	5.17	5.22	△ 5	5.17	5.22	△ 5
出芽期	(月.日)	6. 1	6. 8	△ 7	5.31	6. 7	△ 7	6. 1	6. 5	△ 4
開花期	(月.日)	7.22	7.25	△ 3	7.25	7.31	△ 6	7.15	7.23	△ 8
成熟期	(月.日)	9.26	10. 2	△ 6	10. 6	10.16	△ 10	9.25	10. 1	△ 6
主 茎 長 (cm)	6月20日	14.4	9.6	4.8	13.6	7.5	6.1	13.9	9.3	4.6
	7月20日	50.7	32.8	17.9	45.8	29.8	16.0	51.5	34.2	17.3
	8月20日	64.9	54.1	10.8	76.7	66.7	10.0	55.5	51.0	4.5
	9月20日	65.3	55.3	10.0	78.0	68.0	10.0	56.9	51.5	5.4
	成熟期	61.7	55.8	6.0	76.0	68.0	8.0	55.8	51.2	5.0
主茎節数 (節)	6月20日	4.3	3.1	1.2	4.2	2.6	1.6	4.4	3.0	1.4
	7月20日	12.0	8.5	3.5	11.4	8.2	3.2	11.9	8.5	3.4
	8月20日	13.2	12.5	0.7	15.0	14.6	0.4	12.5	12.2	0.3
	9月20日	13.5	12.8	0.7	15.3	15.0	0.3	13.0	12.4	0.6
	成熟期	12.8	12.9	△ 0.1	14.6	14.9	△ 0.3	12.6	12.6	0.0
分 枝 数 (本/株)	7月20日	7.2	4.4	2.8	3.5	2.4	1.1	6.6	3.1	3.5
	8月20日	7.1	6.1	1.0	6.6	4.9	1.7	7.4	4.5	2.9
	9月20日	7.4	6.3	1.1	6.0	5.2	0.8	6.8	4.8	2.0
	成熟期	6.5	6.8	△ 0.1	5.4	5.6	△ 0.2	6.3	5.6	1.0
着 莢 数 (莢/株)	9月20日	58.0	54.2	3.8	65.8	58.0	7.8	51.8	47.5	4.3
	成熟期	60.5	54.0	7.0	68.3	58.4	10.0	53.6	49.1	5.0
一莢内粒数	(粒)	1.94	1.89	0.05	1.88	1.86	0.02	1.79	1.94	△0.09
子 実 重	(kg/10a)	380	327	53	421	341	80	314	315	△1
百 粒 重	(g)	43.0	42.3	0.7	43.3	42.6	0.7	44.8	44.5	0.3
屑 粒 率	(%)	2.9	1.9	1.0	1.1	1.5	△0.4	1.6	0.6	1.0
裂皮粒率	(粒重%)	45.6	—	—	50.1	—	—	10.0	—	—
品 質	(等級)	3下	2下	—	3中	2下	—	3上	2下	—
子実重平年対比	(%)	116	100	16	123	100	23	100	100	0

- 注1) 平年値は前7か年中、平成5年、6年を除く5か年平均。  
 2) 本年の子実重、百粒重は水分15%換算値である。  
 3) 10月発表の平年値は誤りであり、上記の数値に訂正する。

#### 4. 小豆 作況：不良

事由：播種期は平年より4日早い5月17日であった。播種以降気温は高く推移し、出芽、初期生育は良く、出芽期は3日、開花期は2日早かった。7月下旬～8月中旬は特に高温であったため草丈、節数など生育量は平年より勝ったが、7月下旬より一部倒伏がみられた。気温が高かったため生育が進行し、登熟期間が短くなった。成熟期は平年に比べ18日早い8月23日であった。生育中の病害虫の発生については7月中旬～8月上旬に気温が高く、降水量も多かったため生育後半にアズキ茎疫病の発生が見られ、一部個体で生育が抑制された。また、7月下旬にマメアブラムシの発生があり、防除を行った。

子実重は184kg/10aで平年比74%と低かった。各収量構成要素については莢数はやや多く、一莢内粒数はやや少なかった。登熟期間の気温が高かったため、粒大が小さくなり、百粒重は平年比69%の8.8gであった。屑粒率は規格外の小粒が多く、平年より4.8%多い6.5%であった。しかし、腐敗粒等は少なく検査等級は平年並であった。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		エリモショウズ		
		本 年	平 年	比 較
項 目	年 次			
播種期	(月.日)	5.17	5.21	△ 4
出芽期	(月.日)	6.5	6.8	△ 3
開花期	(月.日)	7.24	7.26	△ 2
成熟期	(月.日)	8.23	9.10	△ 18
主 茎 長 (cm)	6月20日	8.1	4.3	3.8
	7月20日	26.3	14.7	11.6
	8月20日	59.9	38.4	21.5
	成熟期	56.6	37.7	18.9
主茎節数 (節)	6月20日	2.9	1.3	1.6
	7月20日	8.7	6.9	1.8
	8月20日	12.4	11.8	0.6
	成熟期	11.7	11.4	0.3
分 枝 数 (本/株)	7月20日	1.7	1.9	△ 0.2
	8月20日	4.7	2.8	1.9
	成熟期	4.5	2.7	1.8
着 莢 数 (莢/株)	8月20日	43.9	29.7	14.2
	成熟期	43.5	40.3	3.2
一莢内粒数	(粒)	6.19	6.72	△0.53
子 実 重	(kg/10a)	184	247	△ 63
百 粒 重	(g)	8.8	12.7	△ 3.9
屑 粒 率	(%)	6.5	1.7	4.8
品 質	(等級)	2下	2下	—
子実重平年対比	(%)	74	100	△ 26

注) 平年値は前8か年中、平成3年(最豊)、6年(最凶)、8年(茎疫病多発)を除く5か年平均。

## 5. 菜豆 作況：不良

事由：播種期は平年より1日遅い5月24日であった。播種後気温が高く推移したため、出芽期は平年より6日早い6月6日であった。その後も好天が続いたため生育は良好で、主茎長、主茎節数、分枝数は平年を上回り、開花期は3日早い7月13日であった。7月中旬～8月中旬は過度の高温と多雨により、落莢が見られ、前節に比べ生育はやや抑制され、莢数は平年よりやや少なくなった。高温により生育が進行し登熟期間が短くなった。成熟期は平年より14日早い8月24日であった。病害虫の発生は7月中旬～8月上旬に多雨高温であったためインゲン根腐れ病が発生し、根系の損傷が激しかった。

登熟期間の気温が高く、生育日数が短かったため粒大が小さくなり、百粒重は平年比79%の52.5gであった。莢数は平年に比べやや少なく、一莢内粒数は平年並で、子実重は148kg/10aと平年の66%にとどまった。登熟期間後半は好天に恵まれたため腐敗粒が少なく、検査等級は平年並であった。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		改良早生大福		
		本 年	平 年	比 較
項 目	年 次			
播種期	(月.日)	5.24	5.23	1
出芽期	(月.日)	6.6	6.12	△ 6
開花期	(月.日)	7.13	7.16	△ 3
成熟期	(月.日)	8.24	9.7	△ 14
主 茎 長 (cm)	6月20日	18.1	14.5	3.6
	7月20日	294	204	90
	8月20日	294	271	23
	成熟期	292	271	21
主茎節数 (節)	7月20日	18.9	15.5	3.4
	8月20日	22.6	21.4	1.2
	成熟期	20.5	22.1	△ 1.6
分 枝 数 (本/株)	7月20日	7.5	2.7	4.8
	8月20日	4.5	3.1	1.4
	成熟期	5.0	2.6	2.4
着 莢 数 (莢/株)	8月20日	31.3	33.5	△ 2.2
	成熟期	30.6	34.2	△ 3.6
一莢内粒数	(粒)	4.05	3.93	0.12
子 実 重	(kg/10a)	148	224	△ 76
百 粒 重	(g)	52.5	66.1	△13.6
屑 粒 率	(%)	2.0	4.9	△ 2.9
品 質	(等級)	2下	2中	—
子実重平年対比	(%)	66	100	34

注) 平年値は前11か年中、最多収年の昭和63年と、著しい湿害により生育不良となった平成6年、7年、8年、10年及び上記を除いた中で最低収年の平成4年を除く5か年平均。

6. ばれいしょ 作況：不良

事由：植付時期の降雨により耕鋤がおくれたため、植付けは平年に比べ18日おそい5月17日に行った。植付後は概ね気温が高めに経過し、萌芽まで日数が平年に比べ8～9日短縮され、萌芽期は9～10日の遅れとなった。その後も概ね好天に経過し、開花始は平年に比べ3日の遅れにとどまった。開花期以降、きわめて高温に経過し、さらに塊茎肥大盛期にあたる7月末から8月上旬にかけて過湿に経過したため、いも数は少なく、一個重も小さくなった。疫病の発生・蔓延はほとんどなかった。「男爵薯」では、枯凋期は平年に比べ18日遅れた。土壌は過湿傾向に推移し、軟腐病による塊茎腐敗が5%程度発生し、上いも数がさらに少なくなり、上いも一個重は重くなったものの、でん粉価は低く、上いも重では平年比96にとどまった。「農林1号」では平年より7日遅く枯凋期に達した。上いも重は平年比88にとどまり、でん粉価も低かったため、でん粉重では平年比78にとどまった。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		男 爵 薯			農 林 1 号		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
項 目	年 次						
植 付 期	(月.日)	5.17	4.29	18	5.17	4.29	18
萌 芽 期	(月.日)	6.4	5.25	10	6.3	5.25	9
開 花 始	(月.日)	6.30	6.27	3	6.29	6.26	3
枯 凋 期	(月.日)	9.8	8.21	18	9.24	9.17	7
茎 長 (cm)	6月20日	18	30	△ 12	19	33	△ 14
	7月20日	38	40	△ 2	53	57	△ 4
	8月20日	—	—	—	60	61	△ 1
茎 数 (本/株)	6月20日	4.2	4.3	△ 0.1	3.6	4.0	△ 0.4
	7月20日	4.1	4.0	0.1	3.8	3.9	△ 0.1
	8月20日	—	—	—	3.7	4.0	△ 0.3
8月20日における							
上いも数	(個/株)	8.3	9.0	△ 0.7	8.0	10.0	△ 2.0
上いも平均一個重	(g)	89	91	△ 2	88	92	△ 4
上いも重	(kg/10a)	3289	3670	△ 381	3140	4065	△ 925
でん粉価	(%)	15.2	15.0	0.2	16.4	17.0	△ 0.6
枯凋期における							
上いも数	(個/株)	7.1	10.1	△ 3.0	7.8	10.3	△ 2.5
上いも平均一個重	(g)	103	79	24	115	99	16
上いも重	(kg/10a)	3260	3390	△ 130	3986	4509	△ 523
中以上いも重	(kg/10a)	2890	2672	218	3622	3953	△ 331
でん粉価	(%)	14.3	15.5	△ 1.2	14.9	16.8	△ 1.9
でん粉重	(kg/10a)	434	491	△ 57	554	709	△ 155
上いも重平年対比	(%)	96	100	△ 4	88	100	△ 12
中以上いも重	〃 (%)	108	100	8	92	100	△ 8
でん粉重	〃 (%)	88	100	△ 12	78	100	△ 22

注) 平年値は前7か年中、平成4年、6年を除く5か年平均。ただし、8月20日の塊茎調査値は前3か年平均。「上いも」は20g以上、「中以上いも」は60g以上の塊茎である。

7. てんさい 作況：不良

事由：平年並に播種した苗が生育不良で播き直したため、播種期は平年より16日遅い4月20日となった。移植期は、5月上旬の降雨で圃場の乾きが悪かったこともあって、平年より5日遅い5月13日であった。活着は比較的良好であった。苗は平年より小さかったが、6月以降概ね順調に経過したため、7月には生育が平年並となるまで回復し、草丈はむしろ平年を上回るに至った。収穫期は平年と同じ10月12日であった。夏期の高温と7月終わりから8月上旬にかけての2度の集中的降雨による圃場の過湿傾向によって、葉腐病や根腐症状、黒根病が多発したため、根重は6.86 tで平年対比91%、根中糖分は15.23%で同90%とともに平年を下回った。その結果、糖量も1,052kgで平年対比83%と平年を下回った。

以上により、本年の作況は不良である。

品種名(栽培法)		モノホマレ(移植)		
		本 年	平 年	比 較
項 目	年 次			
播 種 期	(月.日)	4.20	4.4	16
移 植 期	(月.日)	5.13	5.8	5
収 穫 期	(月.日)	10.12	10.12	0
草 丈 (cm)	5月20日	2.6	5.0	△ 2.4
	6月20日	23.4	25.2	△ 1.8
	7月20日	57.5	49.1	8.4
	8月20日	66.1	56.9	9.2
	9月20日	65.9	57.6	8.3
	収 穫 期	63.8	55.5	8.3
葉 数 (枚)	5月20日	0.3	2.9	△ 2.6
	6月20日	9.9	10.4	△ 0.5
	7月20日	18.7	19.4	△ 0.7
	8月20日	22.0	22.9	△ 0.9
	9月20日	22.7	26.3	△ 3.6
	収 穫 期	22.8	26.3	△ 3.5
根 周 (cm)	7月20日	22.4	21.1	1.3
	8月20日	28.6	29.0	△ 0.4
	9月20日	32.9	32.8	0.1
	収 穫 期	34.1	34.2	△ 0.1
茎 葉 重	(t/10a)	2.92	3.79	△0.87
根 重	(t/10a)	6.86	7.54	△0.68
根中糖分	(%)	15.23	16.91	△1.68
糖 量	(kg/10a)	1052	1275	△ 223
根 重	平年対比 (%)	91	100	△ 9
根中糖分	〃 (%)	90	100	△ 10
糖 量	〃 (%)	83	100	△ 17

注) 平年値は前7か年中、平成4年、10年を除く5か年平均。

ただし、草丈、葉数および根周の平年値は欠測の平成5年も除く4か年平均。